

総合教育機構

地域人材育成 プラットフォーム



地域活性化の拠点へ

鹿児島大学学長
前田 芳實



鹿児島県知事
三反園 訓

鹿児島大学のビジョン

鹿児島大学は、「地域活性化の拠点」として南九州地域の発展に力を尽くします。その核は人材育成です。社会が抱える諸課題に対してグローバルな視点から論理的に考え、解決に向けて能動的に行動できる「自主自律」かつ「進取の精神」を備えた人材を輩出します。そのような人材は、南九州地域だけでなく、国内あるいは海外のどこであっても活躍していくことでしょう。

こうした鹿児島大学のビジョンを実現するための司令塔となるべく2017年4月に設立されるのが「総合教育機構」であり、地域人材育成の拠点となるのが「地域人材育成プラットフォーム」です。総合大学である鹿児島大学が有する多彩な専門分野の知を結集して全学的な協力体制を整備し、地域活性化の重要な戦力となる人材の育成を目指します。



鹿児島大学が誇る総合教育機構
総合教育機構

鹿児島大学の取組に期待

鹿児島大学の皆さん、鹿児島県知事の三反園訓です。鹿児島は、日本の食料供給基地と言われる豊かな農・畜水産資源を有するほか、神話の舞台、明治維新の礎、近代産業の魁といった歴史・文化遺産があります。また、霧島、桜島、屋久島、奄美群島などの大自然や、指宿をはじめとする温泉といった観光資源にも恵まれています。どれをとっても一流であり、大きな可能性がそこにあります。

一方で、人口減少や少子・高齢化の進行など様々な課題も抱えています。私は皆さんに、このような鹿児島の魅力や課題を学び、鹿児島を活性化するにはどうすればよいか、自分は鹿児島のために何ができるかを考えていただきたいと思います。

今回の「地域人材育成プラットフォーム」は、まさにそれを実現するプログラムであり、今後の取組に大いに期待しているところです。

平成30年には明治維新から150周年を迎えます。鹿児島大学の皆さん、一緒に、明治維新を成し遂げた時のような自信あふれる、勇気あふれる鹿児島をつくっていきましょう。



© 鹿児島県ぐりぶー #656

総合教育 機構の理念

学士の質保証

大学を卒業するとき与えられる学位が「学士」です。どの大学を卒業しても、どの学部を卒業しても、また、どの国の大学を卒業しても、与えられるのは同じ「学士」です。各大学は、輩出する「学士」が十分な能力を備えられるように充実した教育を行う責任を負っています。これがつまり、学士の質を保証する責務ということなのです。

鹿児島大学では、社会の問題を発見し、その解決策を論理的に考え、さらにはその解決に能動的に取り組むことのできる知的教養と専門性を備えた「学士」の育成を目指しています。「学士」にふさわしい論理的思考力や専門的知識の活用力を育成するとともに、そうした力を身に付けていることを社会に示す場を充実させていきます。

共通教育の 実質化・高度化

多くの皆さんは、特定の専門分野に関心をもって大学に入学したのではないのでしょうか。ですが、専門的知識をただ覚えているだけでは不十分であり、そうした知識を社会にある問題の解決に活かす力が必要です。

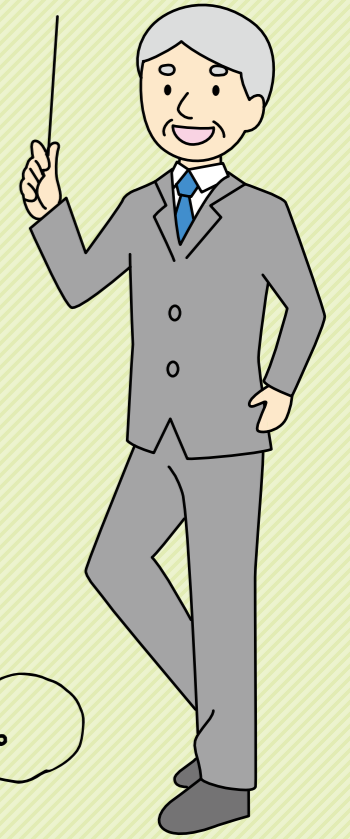
社会の状況を的確に把握したり、自分の考えを他者に分かりやすく伝えたりするために必要な論理的思考力やコミュニケーション能力を身に付けるためにあるのが共通教育です。鹿児島大学では、学生生活とその後の社会生活の基礎体力となるこうした力を着実に育成していきます。

地域人材育成

鹿児島大学は、鹿児島・南九州地域における「地域活性化の知の拠点」としての役割を担っています。中でも最も重要なのが、地域活性化に貢献できる人材の育成です。高い能力を備えた卒業生を地域に送り出すことが求められています。

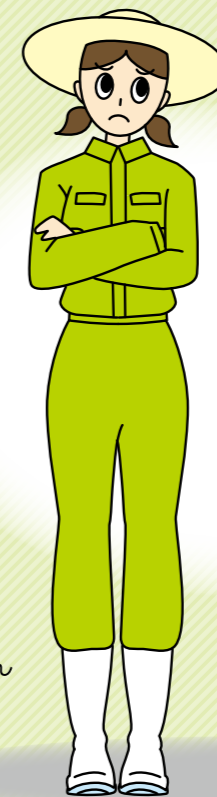
地域活性化に貢献できる人材、すなわち「地域人材」として、鹿児島大学では地域に対する愛着や発展に貢献したいという意欲をもって課題の解決に能動的に取り組むことのできる「学士」を輩出します。そのため新たな取り組みとして、9学部を有する総合大学としての強みを活かした「地域人材育成プラットフォーム」を開設し、「地域人材」育成に取り組めます。

一緒に考えて
いきましょう！

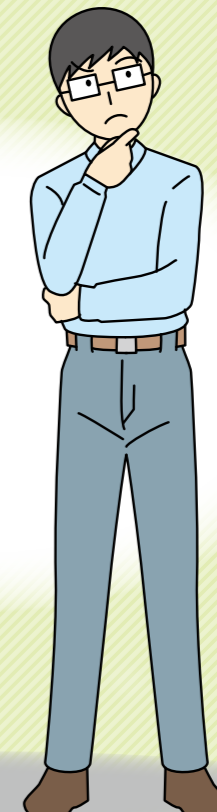


大島先生

大学と地域との関わりか…。



新入生 大隅さん
(農学部)



新入生 薩摩くん
(法文学部)

地域人材育成プラットフォーム

詳細は次へ

鹿児島大学は大学憲章に定めた「真理を愛し、高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい、国際社会で活躍しうる人材」の育成に取り組んできました。これまでの実績を受け継ぎつつ輩出する人材が活躍する場を一層拡充するには、鹿児島大学が持つ人や研究成果などの知的資源を有効に活用し、教育の質を向上させることが必要です。

鹿児島大学
教育担当理事
総合教育機構長
清原 貞夫



地域人材育成プラットフォーム フォームの目標

「地域人材育成プラットフォーム」は、地域する土台となるもので、2つの教育プログラム「かごしまキャリア教育プログラム」と、地域ぶ「かごしま地域リサーチ・プログラム」です。ドワークなどを含み、座学で地域に関する学め、卒業後にいち早く活躍するための能力を

人材育成を目的とした学部横断型の教育を展開ムがあります。学生の地域就業に主眼を置くの歴史や伝統、文化等を学際的に掘り下げて学いずれも中長期のインターンシップやフィールド習をするだけでなく、その知識の活用能力を高身に付けることを目指します。



火山がこんなに都市の近くにあるなんて世界的にも珍しいみたいだな…。

地域のおいしい農作物をもっと海外に売り込んでいく仕事が出来てみたいな…。



具体的なイメージが湧いてきたかな？

「地域人材育成プラットフォーム フォーム」の全体像



鹿児島大学には9つの学部があり、非常に多様な知を備えています。自分自身の関心に応じて他学部の授業も積極的に受講することで、身に付けた専門的知識をより高いレベルで活かすことができるでしょう。そのための仕組みが「地域人材育成プラットフォーム」です。

「地域人材育成プラットフォーム」の修了時には、皆さんがどのような学習をし、どのような能力を身に付けたかをより詳細に示した修了証を発行します。これは、課題解決能力等を初めとする具体的な能力について学生がどの水準まで達しているかを可視化するものです。「地域人材育成プラットフォーム」は3年次に修了できますから、皆さんの進路選択や就職活動において、自分の能力を示すものとして活用してください。

「地域人材育成プラットフォーム」には、次の2つのプログラムがあります。

かごしまキャリア教育プログラム

かごしま地域リサーチ・プログラム

解説しますよ。



「大学と地域」

1年次の全学必修科目です。「大学と地域」には、防災や観光などのテーマが設定されていますので、その中から自分の関心に応じたクラスを選択してください。

「プログラム・スタートアップ科目」

プログラムでの学び方をそれぞれ考えます。自分はどんな科目をこれから履修するか、どんな能力を身に付けていくかを他の皆さんと議論しながら整理していきましょう。

「地域志向科目」

共通教育科目のうち、特に地域との関連が強い科目です。鹿児島や南九州の自然環境や文化に対する理解を深めることができます。

「プログラム科目」

各学部の専門科目です。「地域人材育成プラットフォーム」では、自分が所属する学部の講義だけでなく、他の学部の講義を最低1科目は必ず履修することにしています。自分の関心に基づいて履修する科目を選択しましょう。

「実地体験事前演習」

インターンシップやフィールドワーク等の成果を高めるための予行演習の場です。ここではPBL (Problem Based Learning) という手法を用います。実際に何らかの問題がある状況を設定し、その解決に取り組むことを通じて能力向上を図ります。

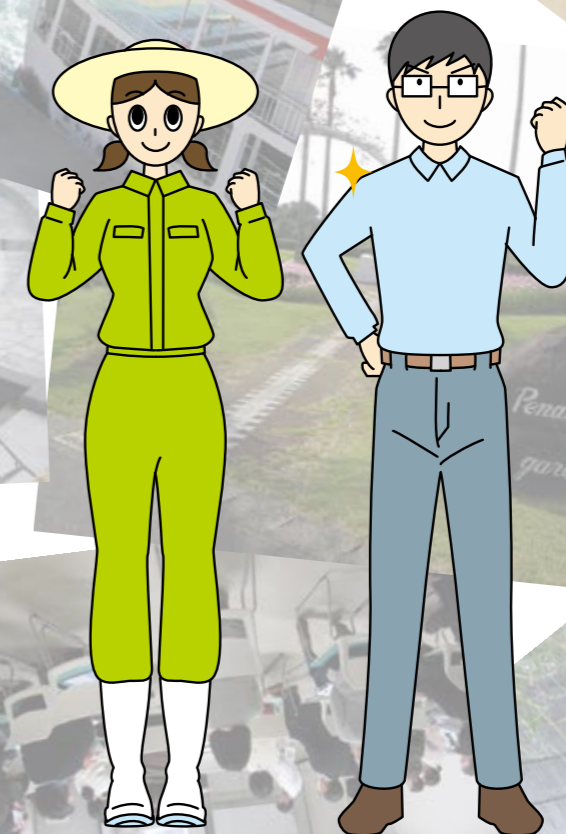
「実地体験」

これまでに学んできたことを実際に活かす場です。職業体験をしたり、実地調査をしたりすることを通じて思考力やコミュニケーション力を高めていきましょう。

「プログラム修了演習」

プログラムの総まとめをするための科目です。これまで学んできたことを振り返り、自分の強みや関心に対する自己理解を深め、これからの大学生活や就職活動に対する意識を高めると同時に、具体的な行動目標を設定します。

私たちが
頑張ってみよう!



かごしまキャリア 教育プログラム

「かごしまキャリア教育プログラム」は、地元での就業を目指す学生に対し、自治体や地元企業との連携に基づき具体的な地域課題の解決に取り組む学習を積極的に取り入れたカリキュラムを通じて、地域活性化に貢献できる能力の育成を目指します。3年次に設定された「地域キャリア・インターンシップ」では、それぞれの目的に応じた多様な働き方を通じて、その後の就職活動や卒業後の就業に対する意識の向上を図るとともに、働くための基礎的能力の育成を図ります。



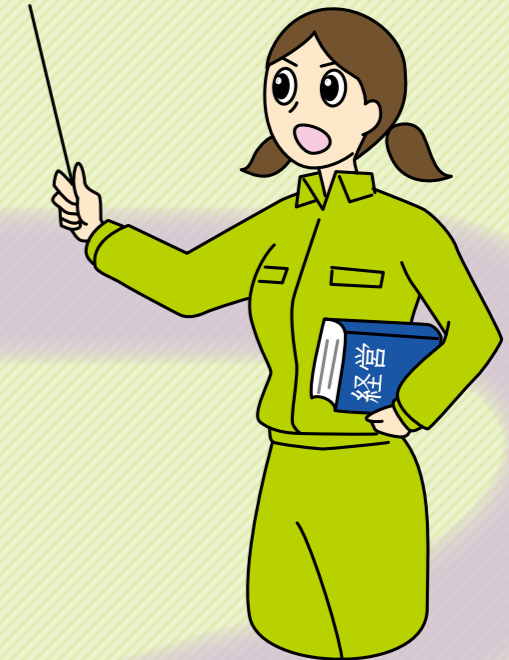
「かごしまキャリア教育プログラム」カリキュラム図



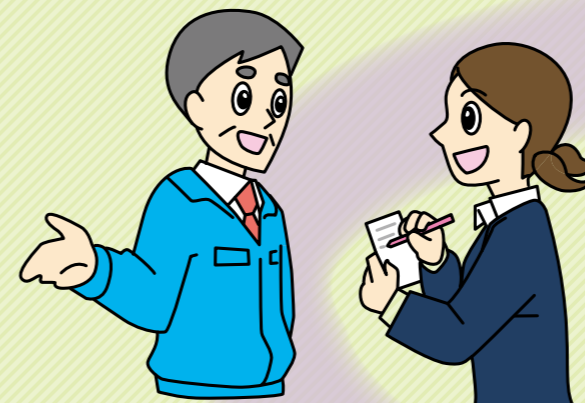
農学部
の
授業を受ける大隅さん



法文学部で
経営学を学ぶ



インターンシップに参加



自らのキャリア・
プランを実現!



かごしま地域リサーチ・プログラム

「かごしま地域リサーチ・プログラム」は、地域の歴史や伝統文化が抱える課題について多様な視点に基づいて理解を深め、自身が暮らす地域の発展に寄与するための能力育成を図ります。3年次に設定された実地体験ではそれぞれの目的に応じて行き先を選択します。例えば、ある島固有の文化について理解を深めたい場合は、その島の施設を活用した地域研修を行います。一方、火山を多く抱える鹿児島県ならではの特性を探究したい場合は、フィールドワークに参加すると良いでしょう。



「かごしま地域リサーチ・プログラム」カリキュラム図



法文学部の
授業を受ける薩摩くん



理学部で
自然環境について学ぶ



火山での
フィールドワーク



リサーチの成果で
躍進!



よく頑張りましたね!



全学支援体制



社会貢献機構

総合教育機構

学部

「地域人材育成プラットフォーム」の運営主体は総合教育機構です。各プログラムのうち、共通教育の運営と全体のコーディネートを行います。全学必修科目である「大学と地域」や各プログラムの必修科目の他、地域志向科目や実地体験の学習成果向上を継続的に実施します。海外研修の実施に当たっては、そのコーディネートも行います。

学部は、それぞれの専門教育の運営主体です。「地域人材育成プラットフォーム」は学部横断型の教育プログラムのため、学生はそれぞれの目的に応じて自学部の専門科目のほか、他学部の専門科目をも受講します。それらの運営や質保証の取り組みについては、学部ごとに責任をもって行います。

そして、地元自治体や企業が抱える課題を収集・分析し、適切なマッチングに基づくインターシップや実地体験のための基盤作りを担うのが社会貢献機構です。学生と自治体や企業双方にとって有意義な研修とするべく、自治体や企業と、また総合教育機構や学部といった学内組織と常に情報を共有しながら研修のコーディネート体制を構築していきます。特に、本プラットフォームに係る組織として、かごしまCOCセンターと産学官連携推進センター（COC+推進部門）があります（COCとはCenter of Communityのことであり、「地域の知の拠点」を意味します）。

総合教育機構の各センター紹介

高等教育研究開発センター

高等教育研究開発センターは、我が国と海外の高等教育（大学）について研究し、これをベースとして現在の鹿児島大学が置かれた状況をデータに基づき的確に把握するための調査研究や全学的な教育課題の解決に向けた提案、教育の質保証に向けた教職員の能力開発を行います。限られた資源を有効活用して高い教育成果、学習成果を挙げるための方策を立案、実施する主体としての役割が期待されています。

また、「地域人材育成プラットフォーム」のコーディネートを担当するのもこのセンターです。プラットフォームは地域人材育成の基盤となるだけでなく、鹿児島大学における教育改革にとっても重要な牽引役となるものであり、その質的向上は将来にわたる重要な課題なのです。

共通教育センター

共通教育の運営及びその質保証・質的向上に責任を負う組織です。共通教育は、どの学部の学生も必ず受講するものであり、多くの学部では卒業に必要な単位数の約4分の1を共通教育が占めています。

特定の専門分野に対して関心をもって入学してきた学生にとって、共通教育の意義はなかなか分かりにくいでしょう。しかし、いくら専門知識を習得しても、それを社会にある課題の発見や解決に活かすことができなければ意味がありません。物事についてどのような筋道で考えればよいか、他者と円滑なコミュニケーションを行うにはどうすればよいか、といった、専門分野を問わず一社会人として重要な基礎的能力を身に付けるための場が共通教育です。

共通教育センターでは、教育内容や方法の改善に向けた取り組みを恒常的に展開します。特に、アクティブ・ラーニング型授業の拡充に努め、能動的に学ぶことのできる学生の育成に努めます。

グローバルセンター

グローバルセンターは大学全体の中で非常に多くの役割を担っていますが、特に教育に関しては、海外で学ぶことを希望する鹿児島大学の学生、鹿児島大学で学ぶことを希望して留学してきた学生に対してそれぞれの状況やニーズに応じた学習のコーディネーターとして機能しています。

海外留学は学生の成長にとって大きな意味を持つものですが、その成果を向上させるには留学目的の明確化やキャンパス内での学びとの接続等、事前に考えておくべきことや終了後にすべきことが多々あります。カリキュラム全体の中に留学をどう位置付けるかという視点に基づいて、留学をより意義深いものとするためにともにあるのがグローバルセンターです。

同様に、留学生の学生生活をより有意義なものとするには、学ぶために必要な日本語力の向上だけでなく、日本人学生との関わりや地域での活動への参加などが重要な役割を果たします。卒業時には日本人と同じ学士となる留学生に対しても、また、短期滞在の留学生に対しても、それぞれの目標達成に向けた教育の実施と学習支援を行います。

アドミッションセンター

鹿児島大学が掲げる目標と提供する教育の内容・方法に見合った学生を受け入れるのに適切な入学選抜方法を開発し、全学的な入試改革を進める拠点となるのがアドミッションセンターです。

アドミッションセンターでは入学者についてその後の学習状況に関する追跡調査を継続的に実施しており、その結果を入学選抜方法やカリキュラムの改善に活かしています。また、結果を高校と共有することで、高校生が円滑に大学生活へと移行するためのブリッジ・プログラム開発にも取り組みます。大学では、哲学や心理学等、高校にはなかった専門分野がある一方、高校での学習内容が基盤となる数学や物理学等もあり、高校で基礎学力を身に付けておかなければ大学での学習で十分な成果を挙げることはできません。こうした課題を解決するためにはブリッジ・プログラムが重要な役割を果たすのであり、そこには高校との連携が欠かせません。アドミッションセンターではそのコーディネートを行います。

